

エコアクション21

環境経営レポート



大船渡湾

2025年7月1日 発行

地域と共に、未来を築く

特定建設業



株式
会社

菊池組

目次

1	環境経営方針	1
2	会社概要	2
3	対象範囲	3
4	環境活動実施体制	3
5	環境経営目標	4
6	環境経営計画	5
7	環境経営目標実績評価	6
8	環境経営計画の実施状況及び評価	7
9	総合評価	8
10	環境関連法規等の遵守状況の確認	9
11	代表者による全体評価・見直し・指示	10
12	その他環境保全活動	11

地域と共に、未来を築く

特定建設業



1. 環境経営方針

環境基本理念

建設業は公共性が高く自然との関わりがとても深い業種です。ですが建設業の事業そのものが自然環境を変化させるものであり、同時に重機や車両の使用で環境に負荷を与えてきました。

私たち 株式会社 菊池組はかねてより『地域と共に、未来を築く』が経営理念です、まさに地域と未来のために、自然環境に負荷を与えてきたことを真摯に受け止め、「エコアクション21環境マネジメントシステム」を導入し、全社を挙げて環境負荷低減・環境保全活動を定着・向上させて、環境経営の継続的改善をしていくことを宣言します。

行動指針

- ◆ 燃料、電力等のエネルギー使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減します。
- ◆ 廃棄物排出量を抑制するとともに、建設副産物の再資源化を推進します。
- ◆ 水資源の節約に努め、生活排水を軽減し周辺環境に配慮します。
- ◆ 環境関連法規等を遵守します。
- ◆ 環境保全に関する社会貢献活動を推進します。
- ◆ 社員のスキルアップ、資格取得を推進し、生産性を高める。

上記の環境方針を達成するために、教育や日常活動を通じて全従業員に周知徹底するとともに、環境保全に関する知識を深め、環境保全に対する意識の向上を図ります。

制定日 2022年12月20日

地域と共に、未来を築く

特定建設業



株式
会社

菊池組

代表取締役 佐々木 孝雄



2. 会社概要

組織の概要

◆社名

株式会社 菊池組

◆代表者

代表取締役 佐々木 孝雄

◆本社所在地

〒022-0002

岩手県大船渡市大船渡町字地ノ森61番地7

TEL. 0192-27-7700

FAX. 0192-27-7701

◆資本金

3,000万円

◆創業

昭和18年5月20日

◆従業員数

26名

◆許認可業種

- ・特定建設業【岩手県知事許可(特-4)第890号】
- ・一般建設業【岩手県知事許可(般-4)第890号】
- ・排水設備工事指定店【大船渡市指定下水第6-28号】

◆業務内容

総合建設業(土木工事一式、建築一式)

◆認証等

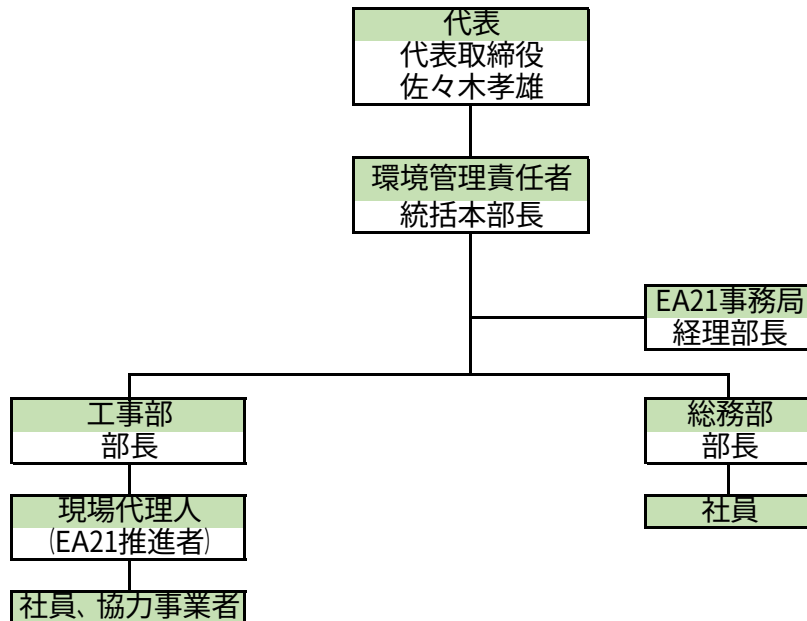
いわて子育てにやさしい企業
いわて女性活躍認定企業 ステップ2
いわて地球環境にやさしい事業所 4星
予備自衛官等協力事業所認定

3. 対象範囲

- ◆認証・登録の範囲
全サイト、全活動、全組織
- ◆レポートの対象期間
- ◆レポートの発行日

2024年6月1日 ～ 2025年5月31日
2025年7月1日

4. 環境活動実施体制



環境管理システム 役割・責任・権限	
代表者 代表取締役 佐々木 孝雄	・経営における課題とチャンスの整理と明確化 ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システム実施に必要な人、設備、費用、時間、技能・技術者を準備 ・効果的な実施体制の構築 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標、環境経営計画・環境管理実施体制を承認 ・代表者による全体評価と見直し実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標、環境経営計画・環境管理実施体制を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
EA21事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画・環境管理実施体制原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開
部門長	・自部門における環境方針の周知、従業員への環境教育訓練実施 ・自部門に関係する環境活動計画の実施、達成状況報告 ・自部門に関係する緊急事態訓練の実施 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・工事現場への指導と点検(工事部門長)
現場代理人 (EA21推進者)	・各作業所において、関係者への環境方針の周知、環境教育・訓練の実施 ・作業所における環境活動計画の実施、達成状況報告 ・作業所における関係する緊急事態訓練の実施 ・作業所の問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・作業所の環境に関する創意工夫の計画と実施
従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加
協力事業者	・環境取組みへの協力 ・作業所の決められたルールを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 環境経営目標

◆基準年を2021年6月1日～2022年5月31日の1年間とする。(以後も年度を6月1日～5月31日とする)

◆基準年度の基準値をもとに中期目標値を定めた。

項 目		単位	基準年実績 2021.6.1 ～2022.5.31	中長期目標		
				2023年度 削減率(%)	2024年度 削減率(%)	2025年度 削減率(%)
① 二酸化炭素排出量の削減	1)電力の削減					
	電気使用量	KWh	34,165	33,823	33,482	33,482
				-1.0%	-2.0%	-2.0%
		0.483kg-CO2/L	16,502	16,337	16,172	16,172
				-1.0%	-2.0%	-2.0%
	2)自動車等燃料の削減					
	ガソリン	L	29,275	28,982	28,689	28,689
				-1.0%	-2.0%	-2.0%
		2.32kg-CO2/L	67,917	67,238	66,559	66,559
				-1.0%	-2.0%	-2.0%
	軽油	L	118,400	117,216	116,032	116,032
				-1.0%	-2.0%	-2.0%
		2.58kg-CO2/L	305,471	302,416	299,361	299,361
				-1.0%	-2.0%	-2.0%
	灯油	L	1101	1,090	1,079	1,079
				-1.0%	-2.0%	-2.0%
		2.49kg-CO2/L	2741	2,714	2,687	2,687
			-1.0%	-2.0%	-2.0%	
LPG	kg	65	64	64	64	
			-1.0%	-2.0%	-2.0%	
	3.00kg-CO2/L	195	193	191	191	
			-1.0%	-2.0%	-2.0%	
CO2排出量合計		392,827	388,898	384,970	384,970	
			-1.0%	-2.0%	-2.0%	
廃棄物の削減	産業廃棄物					
	再生資源化率	%	95.0%	96.0%	97.0%	98.0%
				+1%	+2%	+3%
その他	1)環境保全への協力及び活動					
	社会貢献	回	3	3	3	3
	2)社員のスキルアップ・生産性向上					
	資格取得・セミナー受講 数		30	30	30	30

<補足事項>

- ・目標値は項目ごとに設定する。
- ・二酸化炭素排出量係数は、環境省公表の係数で換算しています。
- ・産業廃棄物排出量は工事により大幅に変動するため、再資源化率のみ目標・評価を設定する。

6. 次年度の取組

◆ 二酸化炭素排出量の削減

1) 電力の削減

- ・ 人のいない場所の照明は消す(昼休み12:00～13:00完全消灯)
- ・ コピー機は節電モードに設定
- ・ パソコン電源OFF(外出時、退社時)
- ・ エアコンの稼働改善
(終業前は早めの電源オフ・適正気温時の電源オフ)
- ・ エアコンの稼働環境改善
(戸締まりの徹底、夏季はブラインドなどで遮光)
- ・ エアコンの温度設定 夏季26度 冬季22度
- ・ エアコンと合わせサーキュレーターを使用し、冷暖房の高効率化を図る
- ・ 現場の電力使用取組状況を確認する
- ・ 現場での環境対策の創意工夫を促す

2) 自動車燃料等の削減

- ・ エコドライブの推進(急の付く運転の防止・アイドリングストップ・ドラレコの設置)
- ・ 計画的な運行(ルート選定・外出回数を減らす)
- ・ 現場移動はできるだけ乗り合わせて、使用台数を減らす。
- ・ 車両の燃料補給時の走行距離を記録して燃料消費量を継続的に計測する。
- ・ タイヤの空気圧を最低月1回点検・補充する

◆ 廃棄物排出量の削減

1) 一般廃棄物

- ・ ゴミの分別(紙、段ボール、ペットボトル)、再資源化
- ・ ペーパーレス化の推進
- ・ zoom会議の推進(会議資料はPDF=紙資料削減)
- ・ コピー用紙の削減(社内回覧等は裏紙利用)
- ・ ミスプリント削減(印刷前の確認の徹底)
- ・ レジ袋の削減(マイバック推進)

2) 産業廃棄物

- ・ 分別の徹底
- ・ 処分業者の選定(再生資源化優先)

◆ その他

1) 水使用量の削減

- ・ 社内・現場での水道利用時「節水」啓発(掲示)

2) 化学物質の使用量削減(工事内容による)

- ・ 環境負荷が少ない材料の選定
- ・ 無駄なく使用する(適切な施工計画作成・使用数量の把握)

3) 環境保全への協力及び活動

- ・ 地域の清掃活動(ボランティア活動)
- ・ 月1回の定例会議で環境に関する項目を議題とする(変更点周知や状況報告など)

4) 社員のスキルアップ・生産性向上

- ・ 資格取得・セミナー受講の推進(資格取得・講習・セミナー受講数で判断)
- ・ 過去の工事データ・作成した様式などを社内オンラインストレージで共有する
- ・ 若手が経験を積む機会を増やす

(社員のスキルアップ・生産性向上により、無駄・残業・休日就労の削減)

7. 環境経営目標の達成状況と評価

◆1年間(2022年6月1日～2023年5月31日)の実績を評価を行った。

評価基準期間：2021年6月1日～2022年5月31日

実績評価期間：2024年6月1日～2025年5月31日

		基準値		目標		実績		評価
		2021.6.1 ～2022.5.31		[上段]値		[上段]値		
				[下段]削減率		[下段]削減率		
① 二酸化炭素 削減 排出量	1)電力の削減							
	電気 使用量	KWh	34,165	33,482	31,931	◎		
				-2.0%	-4.6%			
		0.483kg-CO2/L	16,502	16,172	15,423			
				-2.0%	-4.6%			
	2)自動車等燃料の削減							
	ガソリン	L	29,275	28,689	21,843	◎		
				-2.0%	-23.9%			
		2.32kg-CO2/L	67,917	66,559	50,676			
				-2.0%	-23.9%			
	軽油	L	118,400	116,032	26,652	◎		
				-2.0%	-77.0%			
		2.58kg-CO2/L	305,471	299,361	68,762			
				-2.0%	-77.0%			
	灯油	L	1,101	1,013	638	◎		
			-8.0%	-37.0%				
2.49kg-CO2/L		2,741	2,687	1,589				
			-2.0%	-40.9%				
LPG	kg	65	64	54	◎			
			-2.0%	-15.7%				
	3.00kg-CO2/L	195	191	161				
			-2.0%	-15.7%				
	CO2排出量合計		392,827	384,970	136,611	◎		
				-2.0%	-64.5%			
② 廃棄物 削減 排出量	産業廃棄物							
	産業廃棄物 再生資源化	%	95.0%	97%	100.0%	◎		
				2.0%	+3.0%			
③ その他	2)環境保全への協力及び活動							
	社会貢献	回	3	3	9	◎		
	3)社員のスキルアップ・生産性向上							
	資格取得・セミナー受講 数		30	30	44	◎		

※実績評価：◎よくできた ○できた △まあまあ ×できなかった

<補足事項>

- ・目標値は項目ごとに設定する。
- ・二酸化炭素排出量係数は、環境省公表の係数で換算しています。
- ・産業廃棄物排出量は工事により大幅に変動するため、再資源化率のみ目標・評価を設定する。

8. 環境経営計画の実施状況及び評価

評価基準期間：2021年6月1日～2022年5月31日

実績評価期間： 2024年6月1日 ～ 2025年5月31日

次年度も取組継続することとする。

環境経営計画	実績評価	今後の取組及び対策等
1、二酸化炭素排出量の削減		
1) 電力の削減		
・ 人のいない場所の照明は消す(昼休み12:00～13:00完全消灯)	◎	できた(継続)
・ コピー機は節電モードに設定	○	できた(継続)
・ パソコン電源OFF(外出時、退社時)	○	できた(継続)
・ エアコンの稼働改善 (終業前は早めの電源オフ・適正気温時の電源オフ)	◎	よくできた(継続)
・ エアコンの稼働環境改善 (戸締まりの徹底、夏季はブラインドなどで遮光)	◎	できた(継続)
2) 自動車燃料等の削減		
・ エコドライブを心がける (急発進・急加速・急停止の防止、アイドリングストップ)	◎	できた(継続)
・ 計画的な運行(ルート選定・無駄を省き効率化)	○	できた(継続)
・ 現場移動は乗り合わせて	◎	できた(継続)
2、廃棄物排出量の削減		
1) 一般廃棄物		
・ ゴみの分別(紙、段ボール、ペットボトル)、再資源化	◎	できた(継続)
・ ペーパーレス化の推進	○	できた(継続)
・ コピー用紙の削減(社内回覧等は裏紙利用)	○	できた(継続)
・ レジ袋の削減(マイバック推進)	○	できた(継続)
2) 産業廃棄物		
・ 分別の徹底	◎	できた(継続)
・ 設計数量と実績数量の比較管理	○	できた(継続)
・ 処分業者の選定(再生資源化優先)	◎	できた(継続)
3、その他		
1) 水使用量の削減		
・ 社内水道利用時「節水」啓発(掲示)	◎	できた(継続)
2) 環境保全への協力及び活動		
・ 社会貢献(ボランティア活動)	○	できた(継続)
3) 社員のスキルアップ・生産性向上		
・ 資格取得・セミナー受講の推進(資格取得数・CPDSユニット数で判断)	○	できた(継続)
・ 環境に関する勉強会開催・セミナー等の受講	○	できた(継続)
・ 過去の工事データ・作成した様式などを社内オンラインストレージで共有する	○	できた(継続)
・ 若手が経験を積む機会を増やす	○	できた(継続)

実施評価：◎よくできた ○できた △あまりできていない ×できなかった

9. 環境経営目標と計画の評価・結果についての考察

※多くの項目は、現場を含めると工事内容によって大きく変動するので本社データで比較する。

1. 二酸化炭素排出量

全項目の目標を概ね達成することができ、計画的な取組みが定着してきたと評価できる。

一方で、電力使用量は昨年度よりやや悪化した。特に夏季の猛暑や春先の気温低下により、空調設備の稼働時間・使用量が増加したことが主な要因と考えられる。気象条件に左右されやすい課題ではあるが、今後は照明・空調の運用管理や社員の省エネ意識向上など、日常的に実行できる対策の精度向上が求められる。

燃料消費量については、工事量の増加に伴い若干の上昇が見られた。業務拡大による不可避な要因ではあるが、施工計画段階での稼働効率改善や移動・待機時間の短縮など、燃費改善への取組みを継続的に検討していく必要がある。

また、灯油およびLPGの使用量はほぼ横ばいで安定推移しており、現行の管理体制が一定の効果を発揮していると判断できる。今後も引き続き、小さな改善の積み重ねを継続し、排出量の抑制維持を目指す。

2. 産業廃棄物再資源化率

産業廃棄物については、工事内容や発生物の種類によって再資源化率に変動があるものの、当年度は適切な分別・搬出管理を徹底した結果、再資源化率100%を達成することができた。これは、現場ごとの分別指導や委託業者との連携が定着してきた成果といえる。

今後も、分別精度の維持と新たな再利用方法の検討を継続し、再資源化率100%の達成を安定的に継続できるよう努める。また、排出抑制とリサイクルの両立を意識し、環境負荷のさらなる低減につなげていく。

3. その他

環境保全への協力および活動

社員の環境に対する意識は全体的に高く、ボランティア活動や地域清掃などへの協力姿勢も定着してきている。これまでの取組みは一人ひとりの自発的な行動に支えられたものであり、高く評価できる。今後は、こうした意識が形骸化しないよう、身近なテーマでの啓発活動や、成果の共有を通じてモチベーションを維持・向上させていきたい。

社員のスキルアップ・生産性の向上

昨年度は資格取得やセミナー受講が活発で、社員のスキルアップに大きく寄与した。本年度はその反動で件数自体は減少したものの、**目標はおおむね達成できており、学びの姿勢が定着していることを確認できた。**今後も継続的な学習環境の整備と、若手育成を軸に対策を進めていく。

ICT活用による生産性の向上

社内オンラインストレージの運用が定着し、さらにLINE WORKSの導入によって、情報共有やコミュニケーションの効率が大きく改善した。特に現場と事務所間でのやり取りがスムーズになり、意思疎通のスピードアップと資料の共有精度向上に効果を発揮している。一方で、活用に積極的な社員とそうでない社員の差が見られるため、今後は「気軽に使えるツール」としての魅力を高め、誰もが参加しやすい情報共有の文化づくりを進めたい。

また、次のステップとして電子黒板やスマートフォンの現場カメラ活用を推進し、現場の記録・報告・教育を一体化させる仕組みづくりを進めていく。

若手育成と属人化防止

若手社員の工事実績が増え、着実に自立に向けた成長が見られる。今後は個々のスキルをさらに伸ばすとともに、作業の属人化を防ぐ仕組みを整え、チーム全体で品質と生産性を高めていく体制を確立する。

総括

近年、エネルギーコストやCO₂排出コストが年々上昇しており、環境経営の重要性が一層高まっている。CO₂排出の抑制はもちろん重要であるが、社員の中には「排出量」よりも「コスト面での効果」の方が理解しやすく、成果として実感しやすいという意見もある。そのため今後は、環境活動を経済的メリットとしても見える化し、コスト削減と環境負荷低減の両面から伝えていくことを意識していきたい。

また、エコ運転やデジタル化、管理体制の強化といった取組みは、単なるCO₂削減にとどまらず、現場の安全性や効率性の向上にもつながっている。これらは生産性の改善と安全文化の定着という、当社の経営基盤を支える大きな効果をもたらしている。

さらに、廃棄物の再資源化への取組みを継続することで、廃棄物の排出量そのものが減少し、同時に現場での無理・無駄の削減にもつながった。こうした取組みは結果として生産性の向上を生み、社員一人ひとりの意識変化を促している。今後も、モチベーションを高く保ちながら改善を重ね、環境と経営の両立をさらに進めていく。

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認

◆環境関連法規等の遵守状況

◇当事業所に適応される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
また、トライアル期間中、関係当局からの違反等の指摘、訴訟等ありませんでした。
主な関係法令の遵守状況は下記のとおりとなります。

2025年5月31日現在

法規等の名称	条項	要求事項	遵守
建設リサイクル法	第10条	対象工事の事前届出等の義務付け	○
廃棄物処理法	第12条2項	産業廃棄物の保管	-
	第12条5項	産業廃棄物の適正処理(許可業者に委託)	○
	第12条7項	産業廃棄物処理状況の確認	○
	第12条の3	産業廃棄物管理票の交付	○
	第12条の3 第7項	産業廃棄物管理票の交付状況報告	○
岩手県循環型地域謝意の 形成に関する条例	第9条の2	順多量排出業者の産業廃棄物の減量等に関する計画及び状況報告	○
	第22条	排出事業者の責務等	○
岩手県土木工事共通特記 仕様書	第1章 第1節-4	再生資源利用計画書の監督職員に提出及びシステムに 情報登録	○

11. 代表者による全体評価・見直し・指示

項目	変更の有無	見直しの指示事項等
環境経営方針	無し	変更なし
環境活動実施体制	無し	変更なし
環境経営目標	無し	環境経営目標から、水道使用量・一般廃棄物排出量の項目を削除。啓発活動は継続
環境経営計画	無し	変更なし
環境関連法規等の遵守	無し	変更なし

全体評価

当社の環境マネジメント活動は、取組開始から3年を経て、確実に定着の段階へと移行している。社員一人ひとりの意識が高まり、各部門での取組みが日常業務の中に自然に根付いてきたことは、大きな成果である。特にCO₂排出量や産業廃棄物の再資源化においては、全項目の目標を概ね達成し、継続的改善の仕組みが機能していることを確認できた。

一方で、エネルギーコストやCO₂排出コストが年々上昇している現状を踏まえると、単に排出量を抑制するだけでなく、「経営的視点からの成果の見える化」が今後の課題となる。社員の中には、CO₂削減量よりもコスト削減効果の方が理解しやすいという意見もあり、今後は環境対策を経営的メリットとしても実感できるような伝え方を積極的に取り入れていく。

また、エコ運転・デジタル化・管理体制の強化などの取組みは、CO₂削減のみならず、現場の安全性・効率性向上にも寄与している。さらに、廃棄物の再資源化を進めることで、廃棄物の発生量そのものが減少し、無理や無駄の削減、生産性向上にもつながっている。これらは、環境経営が単なる環境保全にとどまらず、企業の成長基盤の強化につながっていることを示す好例である。

社員のスキルアップやICT活用、若手の育成についても、継続的な成果が見られた。オンラインストレージやLINE WORKSの活用が進み、情報共有のスピードと精度が向上している。今後は、より多くの社員が気軽に参加できる環境づくりを進め、「情報を共有し、協働して改善する文化」をさらに根付かせていきたい。

今後も、環境への取組みを経営の中心に据え、「環境負荷の低減」と「経営の合理化」「社員の意識向上」を一体的に進めていく。小さな改善を積み重ねながら、地域や取引先から信頼される企業として、持続可能な環境経営を推進していく。

12.その他環境保全活動

[illegible]

その他 環境保全活動(写真)



その他環境保全活動(写真2)



環境訓練



奉仕活動



エコスタッフ養成セミナー
講話(岩田)